

第 13 章 B'z

原田 峻史

13.1 B'z とは

13.1.1 概要

B'z（ビーズ）は、ギタリストの松本孝弘と、ボーカリストの稲葉浩志からなる日本の音楽ユニットである。1988 年に結成され、同年にシングル「だからその手を離して」、アルバム「B'z」の同時リリースでメジャーデビューした。それ以降多数のヒット作を輩出し、シングル連続初登場首位獲得数やアーティスト・トータル・セールスを始めとする日本音楽界における数多くの記録を樹立している。また、「LIVE-GYM」と銘打ったライブツアーを積極的に開催し、日本国内外で 850 回を超える公演数を行っている。所属事務所はビーインググループの VERMILLION であり、所属記録会社は同じくビーインググループの Being、レーベルは VERMILLION RECORDS である。所属事務所公式ファンクラブは「B'zParty」で、2016 年 9 月 21 日にはデビュー 28 年目を迎えた。

図 13-1 B'z (左/松本、右/稲葉)



出所：音楽ナタリー

13.1.2 由来

B'z の名前の由来には次のように諸説存在する。特に意味はない、何か記号っぽいものにしたかった、Z と男性的な B を使いたかった、最初はエースが二人だから（もしくは柔軟な音楽性＝あらゆる要素ということで A～Z という意味で）A'z にしようと考えたが、発音が AIDS に似ているので B'z に変更した、松本の好きなビートルズの “B” と稲葉の好きなツェッペリンの “Z” を組み合わせた、ハチの飛び回る音 “BUZZ” から B'z としたなどが挙げられる。元々のユニット名の条件として「現代的な記号のようなものがない」という前提は置かれていたようだ。

上記のように様々な由来が挙げられたが、結論から言うと特に深い意味はなく、B'z の二人やファンの間で後付けされたものが多いであろうと考えられる。その証拠として、松本は 2012 年のインタビューで「昔は適当に答えていた」と語っている。

13.1.3 プロフィール

以下では、2人の個人のプロフィールを示す。

表 13-1 松本孝弘のプロフィール

生年月日：1961年3月27日（55歳）	職業：ギタリスト、作曲家、編曲家、 音楽プロデューサー
出身地：大阪府豊中市	
学歴：錦城高等学校 ミューズ音楽院	事務所：VERMILLION
担当楽器：ギター、ベース、バンジョー マンドリン、ピアノ、シタール	共同作業者：稲葉浩志（B'z）

表 13-2 稲葉浩志のプロフィール

生年月日：1964年9月23日（52歳）	職業：ミュージシャン、ボーカリスト、 シンガーソングライターなど
出身地：岡山県津山市	
学歴：横浜国立大学教育学部中学校教員 養成課程（数学）	事務所：VERMILLION
担当楽器：ボーカル、ギター、ピアノ、 キーボード、マンドリンなど	共同作業者：松本孝弘（B'z）

Wikipedia より筆者作成

13.2 来歴

13.2.1 結成前：デビュー

音楽制作会社ビーイングに所属しながら「自らの音楽を表現できるバンドを創る」という構想のもと、バンド結成へ向けた活動を開始した松本は優秀なボーカリストを探していた。そんなとき、ビーイングの社長で音楽プロデューサーでもあった長戸大幸から1本のデモテープが渡された…。

13.2.2 デビュー後：ブレイク

デビュー当時は TM NETWORK のツアーで訪れるキャンペーンを行うなど、地道な活動が続けていた。キャンペーンについては、ヤマハの楽器店等で「松本によるギターセミナー」と称して開催されたものの、来場者は若い女性が多く、実際はセミナーを早めに切り上げて後半を B'z のお披露目コンサートの時間に当てる、というものだった。メンバーは「多くのファンと握手しすぎて手から指紋が消えた」「お辞儀のしすぎで1日が終わると体が“くの字”から戻らない」などと語ったことがあり、キャンペーンや挨拶回りはかなりのハードスケジュールだったようだ。

13.2.3 ブレイク以降

ブレイク以降もユニット活動を継続し、2015年までにアーティスト・トータル・セールス約8216万枚等の日本記録を数多く打ち立てる。また、日本国内での活動を継続しながらも、日本国外での活動や日本以外のアーティストとの共演が顕著となっていく。初の日本以外でのライブとなった2001年の台北公演を皮切りに、香港公演や全米ツアー等も開催した。また、2007年にはロックンロール・音楽界に貢献したアーティストを讃える「ハリウッド・ロックウォーク」に、日本・アジア圏のミュージシャンとして、初の殿堂入りを果たした。

13.3 音楽活動

13.3.1 音楽方向性

初期の作品はギターサウンドを抑え、打ち込みを前面に出した **TM NETWORK** に近いデジタルサウンドであった。これについて松本は、**B'z** の初期は、確かに（自分がメンバーとして参加していた）**TM** の流れを汲んでいた、**TM** から始まったものが今の僕のスタイルの一部にはなっていると思う、と語っていたりメンバーは、デジタルでは絶対に音が作れないギターとボーカルを、デジタルビートと融合させる、というコンセプトで活動している、とも発言していた。

ブレイク以降は様々にスタイルを変え、デジタルダンスビートから生の管楽器や弦楽器を導入したアレンジや、4ピースバンドロックなどという風に時代に特徴がある。11th シングル「ZERO」や14th シングル「Don't Leave Me」の頃からロックサウンドへの移行が顕著になっていき、同時に打ち込み音を使用する割合は徐々に減少傾向になる。近年の楽曲はハードロックを基調とし、ライブ感を重視したものとなっている。ハードロック以外にもアコースティック調、ジャズ調、ファンク調、レゲエ調、ブルース調、ラテン調、マーチ調、GS調、昭和歌謡調など様々な曲風の楽曲も制作している。

13.3.2 楽曲制作

13.3.2.1 作詞・作曲

全ての楽曲の作曲を松本、作詞を稲葉が担当しているが、完全分業というわけではなく、相手の作業に関して自分のアイデアがあるときは提案をする。松本は楽曲のイメージを稲葉に伝えて歌詞のテーマをリクエストしたり、稲葉は歌い難い箇所があれば松本にメロディの変更をリクエストしたりする。また、**B'z** のほとんどの楽曲は松本の曲が先に作られ、その曲に稲葉が詞をつけるという、業界用語でいう「曲先」で作られている。楽曲制作の始まりは、松本が「最初はメロディとコード」と語っているように、松本がロずさむメロディとギターの伴奏のみの楽曲を作成する。その楽曲をテープなどに収録したり、実際に演奏したりして稲葉に聞かせる。メロディを覚えた稲葉は、そのメロディに適当に仮の歌詞を割り

振り、仮歌を収録する。その後にアレンジを始め、それと同時に稲葉は本歌詞を作成する。

13.3.2.2 編曲（アレンジ）

編曲は、デビューから 2nd アルバムまでは明石昌夫が単独で、3rd アルバムから 1995 年までは松本と明石昌夫が共同で担当していた。1995 年リリースの 16th シングル「ねがい」から松本・明石に加えて稲葉が編曲に参加するようになり、同年に B+U+M を解散して以降は、松本と稲葉のほかに多くのアレンジャーが編曲を担当している。レコーディングやアレンジのときには、メンバーはもちろんのこと、他のサポートメンバー、ディレクター、ステージングのエンジニアなどもアレンジのためにアイデアを持ち寄ることがあるという。その際にメンバーはそのアイデアを口頭で否定することはなく、まずそれらを“一度試してみても”最後に一番良いものを完成形として採用するという方法がとられる。

13.3.2.3 リリース

デビューした 1988 年から 2009 年までシングルは毎年リリースされていた。特に 1988 年リリースの 1st シングル「だからその手を離して」から 2008 年リリースの 45th シングル「BURN-フメツノフェイス-」までの約 20 年間、シングルのリリース間隔が 1 年以上開いたことはなかった。加えて、スタジオアルバムも 1988 年リリースの 1st アルバム「B'z」から 2011 年発売に発売となる 18th アルバム「C'mon」まで、ほぼ 1 年半に 1 作のペースでリリースされていた。

2010 年以降はメンバーそれぞれのソロ活動がメインになることが増え、2010 年と 2014 年は B'z としてのリリース自体されなかった。2011 年に 2 枚、2012 年に 1 枚

表 13-3 ミリオンセラー（シングル曲）

1991 年	『LADY NAVIGATION』	117.3 万枚
1991 年	『ALONE』	112.7 万枚
1992 年	『BLOWIN』	176.4 万枚
1992 年	『ZERO』	131.1 万枚
1993 年	『愛のままにわがままに僕は君だけを傷つけない』	202.1 万枚
1993 年	『裸足の女神』	173.6 万枚
1994 年	『Don't Leave Me』	144.4 万枚
1994 年	『MOTEL』	131.6 万枚
1995 年	『ねがい』	149.9 万枚
1995 年	『Love me,I love you』	139.4 万枚
1995 年	『LOVE PHANTOM』	186.2 万枚
1995 年	『ミエナイチカラ・MOVE』	123.6 万枚
1996 年	『Real Thing Shakes』	114.1 万枚
1997 年	『Calling』	100.0 万枚
2000 年	『今夜月の見える丘に』	112.9 万枚

Wikipedia より筆者作成

シングルをリリースしたが、それ以降はしばらく
シングルのリリースがなく、2012 年発売の 50th シングル「GO FOR IT ,BABY-キオクの山脈-」から 2015 年発売の 51st 「有頂天」までは自身最長である 2 年 9 ヶ月のリリース間隔となった。また、スタジオアルバムも「C'mon」から 2015 年発売の 19th アルバム「EPIC

DAY」のリリース間隔が3年8ヶ月
と最長となった。

13.4 功績

13.4.1 主な記録

B'z はシングル記録において通算首位獲得数（48 作）、連続首位獲得数（48 作）、連続初登場首位獲得数（47 作）、首位獲得週数（64 週）、連続首位獲得年数（20 年）、連続 TOP 10 獲得年数（20 年）、連続ミリオン獲得年数（6 年）においていずれも 1 位という功績を挙げている。また、アルバムにおいては、通算首位獲得数（26 作）、通算ミリオン獲得数（19 作）、初動ミリオン獲得数（10 作）において 1 位という記録を残している。

13.4.2 受賞歴

B'z がデビューから現在に至るまで獲得した受賞歴を以下に示す。

表 13-4 日本ゴールドディスク大賞

年号	回	獲得賞	曲名 or アルバム名
1992 年	第 6 回	ベスト 5 アーティスト賞、 ベスト 5 シングル賞 ミュージック・ビデオ賞	『LADY NAVIGATION』 『JUST ANOTHER LIFE』
1993 年	第 7 回	ベスト 5 アーティスト賞、 ベスト 5 シングル賞	『BLOWIN'』
1994 年	第 8 回	ベスト 5 シングル賞 ミュージック・ビデオ賞	『愛のままにわがままに僕は君だ けを傷つけない』 『LIVE RIPPER』
1995 年	第 9 回	ベスト 5 アーティスト賞	『Don't Leave Me』
1996 年	第 10 回	ベスト 5 アーティスト賞、 グランプリ・アルバム賞 ミュージック・ビデオ賞	『LOOSE』 『“BUZZ!!” THE MOVIE』
1998 年	第 12 回	ロック・アルバム・オブ・ ザ・イヤー	『SURVIVE』
1999 年	第 13 回	アーティスト・オブ・ザ・ イヤー	『HOME』

2000 年	第 14 回	ロック・アルバム・オブ・ザ・イヤー	『Brotherhood』
2001 年	第 15 回	ソング・オブ・ザ・イヤー	『今夜月の見える丘に』
2003 年	第 17 回	ロック & ポップ・アルバム・オブ・ザ・イヤー	『Green』 『The Ballads~Love & B'z~』
2004 年	第 18 回	ロック & ポップ・アルバム・オブ・ザ・イヤー	『BIG MACHINE』
2005 年	第 19 回	ミュージック・ビデオ・オブ・ザ・イヤー	『typhoon No.15』
2006 年	第 20 回	ロック & ポップ・アルバム・オブ・ザ・イヤー	『THE CIRCLE』 『B'z The Best “Pleasure II”』
2009 年	第 23 回	ザ・ベスト 10 アルバム	『B'z The Best”ULTRA Pleasure”』
2010 年	第 24 回	ザ・ベスト 5 ソング	『イチブトゼンブ』
2014 年	第 28 回	ザ・ベスト 5 アルバム	『B'z The Best XXV 1988-1998』

Wikipedia より筆者作成

13.5 OCEAN（ドラマ主題歌）

この曲はフジテレビ系ドラマ『海猿—UMIZARU EVOLUTION』の主題歌となったものである。

2001 年発売の「GOLD」以来 4 年振りのバラードで歌詞、曲共にドラマに寄り添ったラブソングとなっている。PV は、2005 年 6 月 15 日に第 4 管区海上保安本部所属の巡視船「みずほ」で撮影されており、巡視船で PV 撮影が行われたのはこれが史上初ということで話題となった。名古屋港を出港し撮影が行われたが、撮影当日は雨に見舞われ、レーダーで晴れ間を探して移動しながらの撮影になったという。

ドラマのタイアップ効果もあり、16th シングル「ねがい」以来、10 年ぶりにオリコン週間チャート 6 週連続 10 位以内チャートイン、2005 年の年間チャートでも 7 位と「今夜月の見える丘に」以来 5 年振りに年間トップ 10 入りした。シングルとしては「熱き鼓動の果て」以来 3 年ぶりに累計売上が 50 万枚を突破した。

図 13-2 OCEAN 主題歌のドラマ



Yahoo 検索より

OCEAN

作詞：稲葉浩志 作曲：松本孝弘

著作権の都合により割愛

参照 HP

- ・ B'z オフィシャルファンクラブサイト

<http://www.bz-vermillion.com/party/>

- ・ B'z オフィシャルウェブサイト

<http://bz-vermillion.com/>

- ・ ウィキペディア (B'z)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/B%27z>

- ・ ミドルエッジ

<https://middle-edge.jp/articles/I0000762>